2009 年 12 月 25 日発行

点訳通信

65 号

情報文化センター　点字製作係

〒550-0002　大阪市西区江戸堀 1-13-2-8F
TEL 06-6441-1028（点字製作直通）
TEL 06-6441-0015（代表）　FAX 06-6441-0095

あっと言う間に年の瀬です。

来年に向けて，坂本竜馬と奈良に関する本を少し仕入れました。

何としても来年の早い時期に，蔵書として仕上げたいと思います（遷都 1301 年目に発行･･･なんてことにならないようにしましょうね）。

個人的には，年を越してしまうたくさんの２校待ちの本を見ると，胃が，こう，キリキリと･･････。２校者の皆さま，年明けに，私が妙に愛想の良い笑顔で近づいていっても，どうか避けないでください。

それでは皆さま，良いお年を。来年もわかりやすい点字本を，たくさん作りましょう♪（久）

【目次】

◆ 教科書点訳連絡会　秋のセミナーの報告・・・・・・・・・・・・・・・・・2
◆ 校正表についてのお知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
◆ 点訳通信の目録について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4

報告

『教科書点訳連絡会　秋のセミナー
～地域の学校に在学する視覚障害児童・生徒の学習環境はいま』

奥野（おくの） 真里（まり）（点字製作係職員）

去る 11 月 29 日（日曜），当センターにおいて，情文も加盟している『教科書点訳連絡会（教点連）』のセミナーが開かれました。教点連では，年に 2 回セミナーを開催しています。これまでは，教科書点訳のスキルアップに関することや，点訳教材の充実を図ることを目的としたセミナーが多かったのですが，今回は，現場の状況や学習環境の実態を知るべく，実際に児童・生徒に関わっておられる先生にお越しいただき，講演会とシンポジウムを開催しました。

前半の講演会では，「天文学入門」を多媒体※で制作された著者・嶺重（みねしげ） 慎（しん）さんから，その制作秘話と言うことで，制作段階での苦労話，感動話をご講演いただきました。

※１冊の書籍を，点字図書，録音（デイジー）図書，活字図書，電子ブック図書など複数の媒体で同時に製作されており，年々そのケースも増えてきています。また，今回の書籍の点字図書には触図も多く製作されています。

この多媒体での発行は，「宇宙のことを視覚障害者にももっと知ってほしい」と言う思いから始まったとのことでした。一般的には，天体は視覚的な分野であり，とりわけ視覚障害者には縁遠い＝難しいものとされてきました。そのような状況の中で，この分野の図書が，図の説明も含め，触図を製作しながら作られるというのは，たいへん画期的なことです。まず，基礎となる墨字の原稿を作り，それを他の媒体で読んでも分かるように修正していったそうです。また，星の見え方，惑星の状況などは，触図だけを触っても，意味を理解することはできません。そこで，本文とは別に，ていねいな図の解説が加えられていることも，この本の特徴です。しかし，触図の理解は，一人一人の図の認識の仕方，触った図をイメージする方法などが異なるため，個人差があると言われています。そのため，複数名のモニターの方と何度も議論を重ねたともお話されていました。

このように，何度も試行錯誤が繰り返され，手間と時間がかけられ，１冊の本が誕生しました。関わられた方々に感謝しつつも，これまで手がけられてこなかった，つまり点訳とはあまり縁がなかった分野の書籍が，今後，少しずつ増えて行くことを願います。

後半のシンポジウムでは，小学校１年生から地域の学校に通い，点字で学習している大阪府のあるお子さんの例が，視覚障害生徒の担当の先生から発表されました。学校での様子が事例としてあげられ，今後の学習支援の在り方について，参加者からも意見が出され

ました。

この生徒さんの場合，日ごろは，教科書以外の教材の多くを，担当の先生が準備しています。その他の副教材，本人が読みたい本などは地域のボランティアサークルや図書館から借りているそうです。また，理科の時間に，写真で説明されていてどうしても分かりにくい資料がある場合は，紙粘土を使って説明する，算数の立体図形を説明する際にも，実際に立体模型を用意するなど，実際に先生が行っている指導方法もお話ししていただき，その熱意とアイディアには感服させられるばかりでした。この生徒さんは，単独歩行の訓練や，便利な教具などの使い方については，大学や特別支援学校の専門の先生から指導を受け，学習以外の技能についてもしっかりと習得しているようです。また，学習以外の話では，高学年になると，これまでにはなかった友達とのコニュニケーションの課題が出てくるだろうともおっしゃっていました。「学年が上がれば異性のことも意識するようになるし，積極的に溶け込んで行けるだろうか」‥‥‥この問題は，他のお子さんからもよく尋ねられる問題です。

シンポジウムでは，実際にこの生徒さんの副教材の点訳をされているボランティアの方にも，お話しをしていただきました。他の生徒と同時に教材を手にすることができるように，点訳者に早期に原本を届けてほしいと懇願しておられました。

今後も，地域の学校で学びたいと言うお子さんは途絶えることはないでしょう。その中で，教科書を使う児童・生徒，作り手（点字出版所やボランティアグループ），現場（教員など）の連携が大切であることを改めて感じました。

◆◆補足◆◆

現在，視覚障害児童・生徒が学習するにあたり，二つの選択肢があります。一つは特別支援学校（旧・盲学校）で学ぶか，もう一つは地域の学校で健常児といっしょに学ぶと言うものです。最近では，生活している地域で学ぶことを希望するケースが多くなっています。もちろん，学習する内容は同じですが，学習方法や環境などはそれぞれ異なります。

その一つが，教科書の保障です。盲学校の教科書は以前から国費で保障されていますが，地域の学校で学ぶ児童・生徒たちの教科書は，長い間，保障されていませんでした。当事者・支援者の運動が実を結び，ようやく 5 年前から保障されるようになりましたが，まだまだ供給が行き届いているとは言えません。今後も，改善に向けて国への働きかけを続けていく必要があります。また，同時に，地域で学ぶ視覚障害児童・生徒に対する点字の習得や歩行指導など，重要な技能を身に着けていく環境も整備していかなければなりません。

校正表についてのお知らせ

必ず、校正表の確認をお願いします

現在，２校正で出された校正表は担当職員（奥野，小原）が確認し，気づいた点など，職員からのコメントを追記して２校正者に返却しています。この校正表は，２校正者の確認後，点訳者に渡されます（点訳者の郵便ボックスに入れます）。

２校の校正表は点字で，追記のコメントは点字か墨点字（担当職員によって異なります）でお渡しします。手がけられた書籍が最終的にどのような形になったのか，必ず校正表の内容をご確認ください。

また，校正内容や追記コメントについて少しでも疑問に思った時は，些細なことでも担当職員に確認するようにしましょう。

点訳通信の目録について

数年前に「点訳通信」の目録を製作しましたが，その後，通信の号数も増えてきましたので，新たな目録もしくは増刊号が必要ではないかと言うご意見をいただいています。

バックナンバーを確認した上で，区切りの良い時期に作成できないかを検討したいと思いますので，しばらくお待ちください。

10 月から始まった平成 21 年度点訳技術講習会が，12 月 12 日に前期課程を修了しました。

1 月から，同じく毎週土曜日の午前に後期課程がスタートします。点訳者の卵たちを応援しましょう。

講習会の様子

ご存じですか

郵便ボックスの上に，『ご意見箱』兼『推薦図書受け付け箱』を置いています。

推薦いただいた図書は，月に１度の選書委員会で製作の有無を検討します（「私が点訳したい！」という本は，お名前も書いて入れてください）。